

海外視察研修旅行シリーズ 1

ベトナム・カンボジアへの旅

日本旅館国際女将会



ハノイ市観光局を表敬訪問する日本旅館国際女将会の一行



ハノイ市観光局のチャン・ドク・ハイ副局長(左から2番目)ら



女将会の出席者



世界遺産のアンコールワット



アンコールワットの前で



ハノイ近郊のタムコック川(川下り)



アンコールトム



ハノイ・ホアンキエム湖

成長する2国の現状を見る

日本旅館国際女将会(長坂正恵会長)は9月8日から13日まで、観光経済新聞社(福田朋子社長)と一般財団法人日本ホテル教育センター(石塚勉理事長の支援のもとベトナム・カンボジア両国を訪問した。これまでの「旅館とホテル文化の国際交流シリーズ」(1~15回)、「世界のホスピタリティ体験シリーズ」(1~5回)に続く、「海外視察研修旅行シリーズ」の1回目として実施。昨年度会費20周年を迎え、事務局体制を新しいものに伴い、視察・研修の意味を強め、名称を改めた。

ベトナム
豊富な資源を生かし
観光開発が進む
ハノイ市観光局の表敬

(2015年)。1986年に市場経済を導入して以来、都市部を中心に急速な経済成長を遂げてきた。一方では地方部との格差が広がり、その活性化が重要な課題となっている。対策として、海外からの支援を得るべく、豊富な文化遺産や自然資源を生かした観光開発を進めている。外国人旅行者は中国、韓国、日本、オーストラリア、台湾、アメリカ、フランスなどから約780万人(2014年)で、定額ダンロン遺跡、文廟、傾向にあり、同市では20

カンボジア
観光の中核を担う
2つの世界遺産
カンボジアは人口1513万人を有する立憲君主制国家で、1993年に現体制が成立。農業、縫製業、観光業が三産業の占める比率は約35%に

日本とベトナムが国家プロジェクトとして進めてきた「日越大学」の開学式典が9月9日、ベトナム国家大学ハノイ校、グエンパンタオ講堂で開かれた。二階後援機関である自民党訪越団をはじめ、両国政府関係者、大学関係者、JICA関係者など約400人が出席した。観光経済新聞社福田社長、日本ホテル教育センター石塚理事長、黒沢由美理事兼補佐の3人も参加した。

日本旅館国際女将会
日本旅館国際女将会は1985年、政府のヒジツト・ジャパン・キャンペーンに呼応し、観光政策支援、業界貢献への一助として、「旅館と女将を国際語に」をスローガンに、女将自ら国際体験を通じて、日本からの伝統的な旅館の料理、施設、サービスを紹介して訪日を促進することを目的に設立。「旅館とホテル文化の国際交流シリーズ」を開始した。1995〜2009年の15年間で17カ国6都市を訪問、観光行政関係機関との公式行事を15都市で開催。参加者累計273人、現地関係者招待数1200人、メディア掲載約150点、取材出演テレビ45局などの実績を残した。また、2010〜2011年の5年間は「世界のホスピタリティ体験シリーズ」として6カ国19都市を訪問、参加者は累計48人、世界のホスピタリティ体験に加え、観光行政機関の表敬訪問、記念植樹を行っている。

参加者敬称略
長坂正恵(女将会会長)、岡崎純子(深山荘高見屋)、小口潔子(四季彩一力)、須賀紀子(登別温泉滝乃家)、河野暢子(富士野屋)、上野和子(かまう亭)、立石恵津子(かよ亭)、山本未妃(黒船ホテル)、福田朋子(観光経済新聞社)、石塚勉(日本ホテル教育センター)、黒沢由美子(日本ホテル教育センター)



「日越大学」開学式典
日越大学はベトナム国家大学ハノイ校を構成する7番目の大学として2014年7月に設立された。ベトナムの政府や産業界、日系企業で活躍する人材の育成を目指す。大学院修士課程6コース、院生75人(メジャー)が在籍している。2020年には大学の教育も始める。カリキュラム策定や、教員および学生の派遣、交流で日本の政府、大学が協力する見通しだ。

「日越大学」ハノイに開学
日越大学はベトナム国家大学ハノイ校を構成する7番目の大学として2014年7月に設立された。ベトナムの政府や産業界、日系企業で活躍する人材の育成を目指す。大学院修士課程6コース、院生75人(メジャー)が在籍している。2020年には大学の教育も始める。カリキュラム策定や、教員および学生の派遣、交流で日本の政府、大学が協力する見通しだ。

日本旅館国際女将会
日本旅館国際女将会は1985年、政府のヒジツト・ジャパン・キャンペーンに呼応し、観光政策支援、業界貢献への一助として、「旅館と女将を国際語に」をスローガンに、女将自ら国際体験を通じて、日本からの伝統的な旅館の料理、施設、サービスを紹介して訪日を促進することを目的に設立。「旅館とホテル文化の国際交流シリーズ」を開始した。1995〜2009年の15年間で17カ国6都市を訪問、観光行政関係機関との公式行事を15都市で開催。参加者累計273人、現地関係者招待数1200人、メディア掲載約150点、取材出演テレビ45局などの実績を残した。また、2010〜2011年の5年間は「世界のホスピタリティ体験シリーズ」として6カ国19都市を訪問、参加者は累計48人、世界のホスピタリティ体験に加え、観光行政機関の表敬訪問、記念植樹を行っている。